双葉通信【第 241 回】（人生は旅人№25）“ふくしまに恋をして　福島人に”

2025 年 3 月 20 日　上田　勉

私と放送大学　3 月は、卒業の季節です。学校を卒業したり、会社を退職する人もいます。私は、3 月に通信制の放送大学教養学部の生活と福祉コースを卒業することが出来ました。76 歳の大学卒業です。

放送大学は、無試験で入学することが出来ます。前は年配の学生が大方でしたが、今は若い学生も多いです。一度社会に出て、学問の必要性を感じて、入学する人も多いです。放送大学は、入学は簡単ですが、卒業するのは難しいです。卒業論文を書かなくても、所定の単位を取れば卒業することが出来ます。

福島第一原発事故における病院の避難

私の今のライフワークは、「福島第一原発事故における病院の避難」についてです。原発事故による避難で最も困難な人は、病院や介護施設にいる寝たきりの患者（高齢者）です。大熊町にある双葉病院では、介護施設を含めて 50 人の患者が避難中や避難後に亡くなりました。避難の搬送手段は、キャスターのある救急車や自衛隊ヘリコプターではなく、観光バスでした。双葉町から南相馬市⇒福島市⇒郡山市を経て、いわき市の光洋高校へ避難しました。普段では南相馬市⇒いわき市は国道 6 号で 1 時間 30 分くらいです。しかし、国道 6 号は避難指示区域だったので通れず、20 時間以上かかりました。

私はこのことを知って、卒業論文を書くことにしました。原発事故当時の医療従事者に、当時のことについて聞き取り調査をしました。協力してもらった医療従事者の方は 7 人でした。協力してもらえなかった理由の 1 つは、原発事故から 13 年が経って当時の職員がいない、と言うことです。震災前に、避難指示が出された半径 20km 圏内には 7 つの病院がありました。しかし、現在再開した病院は 0 です。

【福島第一原発事故における病院の避難の課題】

・町役場や住民が先に避難してしまい、残された病院は孤立した。

・福島県災害対策本部がパニックになって、病院避難の搬送手段や受け入れ先は、各病院が探さなければならなかった。

・病院避難は、長距離・長時間の移動になった。

・寝台がある救急車や自衛隊ヘリコプターが来なかったので、バスで移動せざるを得なかった。・移動先も、避難住民と同じく高校や体育館だった。

・30km 圏内は屋内退避なのに、住民は避難して、病院は孤立した。

・30km 圏内には貨物トラックが入って来なかった。食料や薬が不足した。

・医療従事者の中にも、小さい子供や介護者がいるなど様々な事情があって、で避難する人がいた。

・結果論だが、避難手段と避難（受入れ）先が決まるまでは避難しなかった方が、重篤患者の命は助かったのではないか。

【3 月 14 日～避難先　いわき光洋高校の体育館（2012 年 12 月 8 日 NHK スペシャル「50 人がなぜ…過酷な避難の中で」）―双葉病院（大熊町）の患者】

【放送大学教養学部の卒業証書・学位記】（2025 年 3 月 30 日撮影）

福島県の東日本大震災・原子力災害伝承館において月 1～2 回、「原発事故における病院避難」について語り部をしています。